

こどもの日



こどもの日は「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ことを目的とした国民の祝日で5月5日にあたります。こどもの日は5月5日に、こいのぼりや鎧兜、菖蒲を飾ったり、菖蒲湯に入り、柏餅やちまきを食べ、男の子の厄除けと成長を祝う行事となっています。

豆知識シリーズ④

データでみる広島市高齢者を取り巻く現況

出典：広島市ホームページ

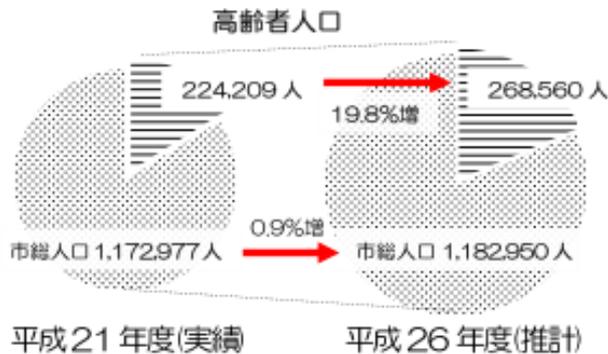
平成26年度には、高齢化率が22.7%になると見込まれ、市民のおおむね4人に1人が65歳以上の高齢者という本格的な高齢社会を迎えます。少子高齢化の進展により、社会の活力の低下が危惧されます。

そうした中、要支援・要介護認定者数は、高齢者人口の伸び以上に増加することが見込まれ、また、広島市が実施した調査によると、要支援・要介護認定者のうち、半数を超える人が、家族介護や介護サービスを利用しながら在宅で暮らしたいと思っています。

一方、同じ調査によると、要支援・要介護認定を受けていない高齢者のうち、6割程度がボランティア活動等の地域活動に参加しており、元気で活動的な高齢者も増加しています。

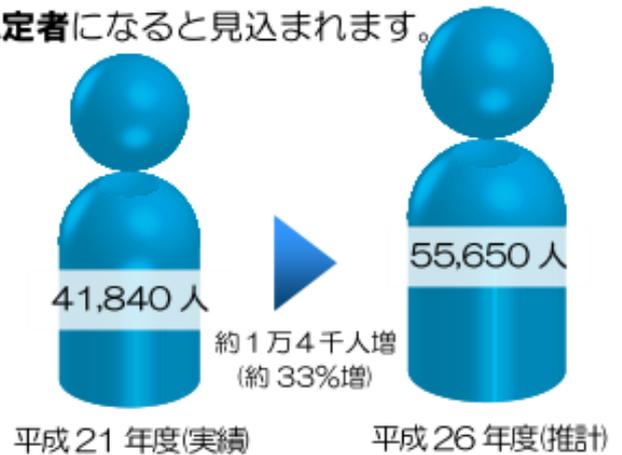
高齢者人口（推移）

本市の65歳以上の高齢者人口は、平成21年度から平成26年度までの5年間で約4万4千人増加し、高齢化率も19.1%から**22.7%に上昇**し、市民のおおむね**4人に1人が高齢者**になると見込まれます。



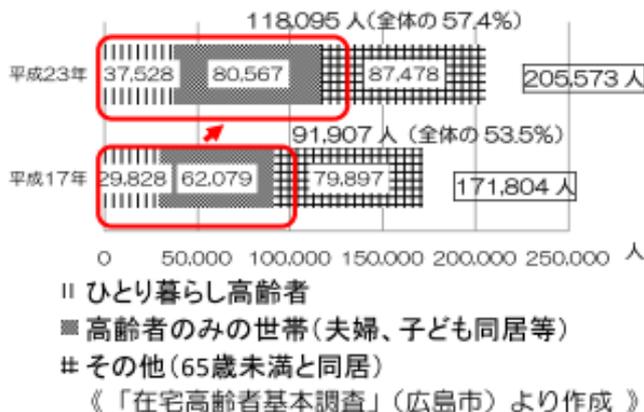
要支援・要介護認定者数（推移）

平成21年度から平成26年度までの5年間で、**約1万4千人増加**し、平成26年度には、高齢者のおおむね**5人に1人が認定者**になると見込まれます。



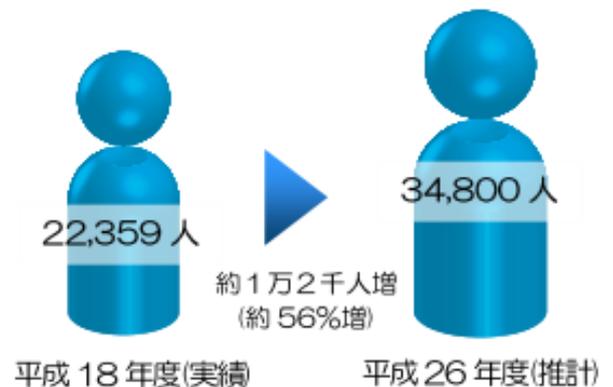
在宅高齢者の世帯（推移）

在宅のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯に属する人数は、平成17年度から平成23年度までの6年間で、**約2万6千人増加**しています。



認知症の人の数（推移）

平成18年度から平成26年度までの8年間で、**約1万2千人増加**し、平成26年度には、高齢者のおおむね**8人に1人が認知症**になると見込まれます。



介護を受けて暮らしたい場所

要支援・要介護認定者のうち、家族の介護や介護サービスを利用しながら、**在宅で暮らしたいと思っている人は半数以上(55.3%)**います。

在宅で家族の介護や介護サービスを利用しながら暮らしたい	39.7%
常時何らかの介護が必要な状態になっても、家族に過度の負担をかけずに生活できるのであれば、在宅で暮らしたい	15.6%
介護が必要な状態になれば、施設や介護サービスの付いた高齢者向け住宅に入りたい	11.6%

孤立への不安を感じる要支援・要介護認定者

要支援・要介護認定者のうち、地域で孤立するかもしれないと不安を感じる人は、**半数程度(49.5%)**います。

とても不安を感じる	13.6%
少し不安を感じる	35.9%
あまり感じない	33.1%

(注)このページの図表は広島市の「高齢者の生活実態と意識に関する調査」より作成